

令和 8 年度 此花区運営方針の取組状況 (資料 2)



此花区役所



「令和8年度此花区運営方針」

経営課題 1

区内の活性化と回
遊促進

【回遊促進】

【空き家対策】

経営課題 2

安心・安全・きれい
で環境課題に取り
組む街の実現

【防災・防犯・
環境】

【「気にかける」
地域づくり】

経営課題 3

区民の健康の維持・
向上

経営課題 4

子育て環境の向上

経営課題 5

各種施策展開の土台
づくり

【共創・連携の
推進】

【「伝わる」
情報発信】

【地域コミュニティ
の活性化】



Point

上記の5項目を重点的に取り組む主な経営課題と位置づけています。

経営課題 1 区内の活性化と回遊促進

【回遊促進】

現状	課題認識	具体的な取組
・地域住民の移動手段の確保や、観光・来訪者の回遊性向上が求められている。	「SDG s 先進区」「ウェルビーイングな街」として住んでみたい、あるいは住み続けたい街となるべく、区内活性化および回遊促進等に取り組み、此花区の魅力を向上させる必要があり、今年度は主として次の事項に取り組む。 ・令和8年3月から社会実験開始となるA I オンデマンド交通を、運行事業者と共に社会実験以降も運行継続できるようにすること	・運行事業者や地域団体等と連携し、ガイドブックの配架やサポートデスクの設置を通じて区民理解の促進を図るとともに、オンデマンドバスの活用による交通利便性の向上及び社会実装を推進する。
	・舞洲、常吉、此花西部臨港緑地等のベイエリア、西九条エリア、此花区中心部エリアそれぞれの魅力を区内外に訴求すること	・それぞれの地域資源や魅力について、地域・民間事業者等と連携し、デジタル観光・地域魅力発信アプリ「NewTravel」を活用した効果的な区の魅力発信等の実現に向け、利用者の利便性向上に資する案内や区内の活性化及び回遊促進等につなげる。

経営課題 1 区内の活性化と回遊促進 【空き家対策】

現状	課題認識	具体的な取組
・此花区では、特定空き家・管理不全空き家を把握しているが、その多くは近隣住民からの通報などをきっかけに判明したものである。 ・判明した空き家はリスト化している。 ・一方で、通報などがない空き家は件数を把握できていないため、未把握の空き家が相当数存在する可能性がある。	「SDG s 先進区」として、安心・安全の確保に加え、美化・環境問題の取組が進んでいる街を目指し、次の事項に取り組む。 ・空き家の流動化を促し、街の活性化を図ること	・区内全域を対象に空き家調査を実施する（特定空き家、管理不全空き家、管理不全空き家となる可能性が高い空き家、その他に分類）。 ・調査は、水道が閉栓されている家屋を参考情報として抽出し、安全サポート担当が各物件を1件ずつ現地確認し、空き家の状況を把握する。

経営課題 2 安心・安全・きれいで環境課題に取り組む街の実現 【防災・防犯・環境】

現状	課題認識	具体的な取組
・災害時に津波避難ビル等へ避難できることを知らない区民が多い。また、街の美化や環境問題への取組も十分とはいえない	「SDG s 先進区」として、安心・安全の確保に加え、美化・環境問題の取組が進んでいる街を目指し、次の事項に取り組む。 ・発災時、区民が自助・共助・公助により、いのちを守れる行動をとれること	・令和8年11月に、地域一斉の津波避難訓練の実施を予定している。ひとりでも多くの命を救うため、可能な限り屋内や軒下などの適切な避難先を選定するとともに、事前に各地域でワークショップを重ね、想定される課題への対応を進める。 ・個人情報の提供に同意いただける、優先度の高い避難行動要支援者（366名）については、個別避難計画の策定を推進している。なお、複数回アプローチしても連絡が取れない51名を含めると、達成率は100%となる。 ・個人情報を提供できない方々への対応方針について、検討を進める。
	・街の美化活動や環境問題への取組を可視化し、より多くの区民、区内事業者の取組参加を促すこと	・区民や区内事業者が、自発的かつ継続的に街を清掃し、美化に取り組む。 ・取組の一環として、ごみ拾いアプリ「ピリカ」を導入する。アプリを活用することで、路上ごみの状況把握や地域清掃活動の報告を、いつでも・どこでも・誰でもスマートフォンで行えるようにし、楽しみながら参加できる仕組みを整える。 ・これにより、区民および区内事業者の参加を促進する。また、此花区役所職員も5月7日から庁舎周辺の清掃を実施し、此花区全体で清掃活動を推進していく。

経営課題 2 安心・安全・きれいで環境課題に取り組む街の実現 【「気にかける」地域づくり】

現状	課題認識	具体的な取組
・ 少子高齢化、独居世帯が進行する中、人と人とのつながりが希薄化する中、「8050」問題やヤングケアラー問題など福祉課題が一層複雑化、多様化、深刻化している 支援が必要にもかかわらず、自ら支援を求めることが困難なケースが層化している 社会的なつながりが希薄な区民や世帯に関する問題が生じている	安心・安全・きれいで環境課題に取り組む街を実現するため、次の事項に取り組む必要がある。 ・ 「気にかける」地域づくり（～気にかける つながる 支えあう～）を実現すること	子どもから高齢者まで見守りを必要とする方へ見守り活動を行うとともに、必要に応じて行政機関や地域関係団体へつなぐなどの地域のつなぎ役を担う「このはな地域見守りタイ」事業を実施している。 しかし、その担い手であるボランティアの確保が難しくなることが想定される中、活動の負担軽減を図り、担い手確保のための取組みを強化する一方、アンテナ機能・つなぎ機能の強化拡充や関係機関等との連携・情報共有のあり方をはじめ、役割の見直しや明確化、より効率的・実効性のある事業となるよう事業の再構築を行う。 また、ICTツールを活用した「みまもりあいプロジェクト」を推進し、見守りにかかわる数を増やす。

経営課題 3 区民の健康の維持・向上

現状	課題認識	具体的な取組
高血圧等、生活習慣病の有病率が市内でも突出して高く、患者一人当たりの医療費も高い傾向にある。	「健康先進区」を目指して、区内企業を巻き込みながら、区民の健康の維持・向上を図るため、次の事項に取り組む。 ・がんリテラシー向上を図り、がん検診受診率向上に取り組むとともに、検診結果に応じた受診行動がとれるようになることを目指す。またヘルスリテラシー向上による中期的な区民の生活習慣病にかかる指標の改善に取り組むこと ・区内中小企業に対して、「健康経営」の推進を促し、「3視点の健康（従業員、企業、地域）」を目指す。また中期的には此花区の中小企業は、「健康経営」への取組が進んでいることをブランディングのひとつの要素とすること	・リテラシー向上や健康意識改革を促すため、官民共創による情報提供、イベント開催、スーパーや商店街での血管年齢測定等、様々な区民との接点を多く持つ。 ・此花区公式LINE、広報誌、HP等でヘルスリテラシー向上及び健診受診・健診結果に応じた行動（保健指導や精密検査等）についての情報発信を行う。 ・健康経営推進について企業団体等に情報発信を行い積極的に働きかけるとともに、健康経営優良法人認定に対して支援を行う。

経営課題 4 子育て環境の向上

現状	課題認識	具体的な取組
「論理的思考力の向上」 令和7年4月より、考える力を育てるために以下の取り組みを実施したが、保護者への浸透までには至らなかった。 ・毎月広報誌にて「名探偵このはちゃん」として考える力クイズを提供 ・小学校でスポーツを通した「考える力授業」を実施 ・子ども関連のイベントで年4回、考える力クイズを出店 「体験格差の解消」 学校ごとでも、体験授業の実施回数に差がある。 家庭環境によって、体験回数に差がある。 こどもが「好き」を見つける機会を一定保障する必要がある。 「つながりの場」の提供 「こども・子育てプラザ」などに新たな参加者がつながりにくい。	子育て世代が住みたい街となるべく、子どもたちが「生きる力」をはぐくむ子育て環境の実現を図り、次の事項に取り組む。 ・子どもたちに「論理的思考力向上」「体験格差の解消」の機会を提供すること ・子どもおよび保護者に「つながりの場」を提供すること	「論理的思考力の向上」 保護者に「考える力」を育てることが、子どもの「生きる力」につながっていくことを理解して取り組んでいただけるように、前年度の取組は継続しつつ啓発活動を促進する。 ・「名探偵このはちゃん」のクイズを通した学びを浸透するパネルを作成し、イベントごとに周知を図る。 ・イベントで「考える力の必要性」のショート動画を放映する。 「体験格差の解消」 学校内・・・教育格差なく、体験を提供可 学校外・・・学校に捉われず、多様な体験を提供可 学校内・外の良さをそれぞれがお互いに補完しあい、子どもたちの体験が充実するように、企業などと連携した体験授業や職場体験を促進 「つながりの場」の提供 新しい人が参加しやすくなるような企画を考えたり、検診からの参加の促しを図るなど促進

経営課題 5 各種施策展開の土台づくり 【共創・連携の推進】

現状	課題認識	具体的な取組
・地域課題や行政ニーズが多様化・複雑化する中、行政のみでの対応には限界があり、企業、教育機関、地域団体等との連携による新たな価値創出が求められている。	経営課題 1～4 に取り組む土台として次の事項に取り組む。 ・「共創・連携の推進」官民共創プラットフォーム「ウェルビーイング此花」を通じて、企業等と共創・連携し、此花区に新たな魅力を創出していくこと	官民共創プラットフォーム「ウェルビーイング此花」を通じて、企業、教育機関、地域団体等との共創・連携を推進し、 ① 健康リテラシー向上 ② 西九条駅を中心としたブランド化 ③ 子育て・教育 ④ アート ⑤ 環境 など、地域活性化の分野におけるプロジェクト等を実施する。

経営課題 5 各種施策展開の土台づくり

【「伝わる」情報発信】

現状	課題認識	具体的な取組
①区民へ「伝わる情報発信」の土台作りとして、幅広い世代が利用している「此花区公式LINE」を活用している。現状の登録者数は順調に増加しているものの区民の約8%にとどまっている。 LINE登録者数 令和6年 6月 1, 0 2 6 人 令和7年 3月 2, 4 0 9 人 令和7年10月 3, 9 2 1 人 令和8年 5月 4, 9 9 2 人 (<u>此花区人口約63,000人</u>) ②区内イベントや市政に関する情報を週1回程度配信を行っているが、ターゲットをしばった情報発信ができてない。	経営課題1～4に取り組む土台として次の事項に取り組む。 ・「『伝わる』情報発信」幅広い世代が利用するLINEのお友達数の登録を増加させ、多くの区民に利用される情報媒体とすること	①区民が多く集まるイベントや、定期的に行われる教室、区役所窓口等で呼びかけを行い、LINEの登録者数を増やす。 ⇒6月子どもフェスタ、10月区民まつり、11月アートイベントなど。スマホ教室、乳幼児健診、保育所入所相談等でLINE登録を呼びかけ、子育て世代の登録者数を増やす。 ・LINEから広報誌へのアクセス性向上 広報誌閲覧サービスであるスマート広報への案内をリッチメニューに追加し、LINEから手軽に広報誌を閲覧できる環境を構築する。また、YouTube、Instagram、X等のSNSを用いて広報誌を閲覧するには区公式LINEが便利であることを発信する。 ②情報の充実 毎月1日に子育てに関する情報を一括配信する。定期的かつ、まとまった情報を取り入れることを可能とすることで、子育て世代のお友達登録を呼びかける。 LINEリッチメニューからトピックス情報にアクセスさせる。リッチメニューに話題性のある情報を掲載することで、必要な情報を必要な時に届ける。

経営課題 5 各種施策展開の土台づくり 【地域コミュニティの活性化】

現状	課題認識	具体的な取組
地域社会においては、地域福祉や防災への対応の必要性が高まっているが、ライフスタイルの変化により人と人とのつながりが希薄になっているため、地域コミュニティの活性化を図ることにより、地域が地域課題に対応でき、日常及び非日常時において「共助」が成立し、多くの住民が暮らしやすいと実感できる状態にすること	経営課題 1 ～ 4 に取り組む土台として次の事項に取り組む。 ・「 地域コミュニティの活性化 」「共助」の仕組みが大切であることを訴求し理解促進を図るとともに、担い手確保に向け新たな手段を地域や区内企業とともに模索すること	主な世代が異なる地域団体間での今後の地域活動に関する意見交換や企業への地域担い手支援の呼びかけを行う